

# 河南町における地域公共交通

- ◇ 現状と課題
- ◇ 地域公共交通に関する提言

平成 22 年 7 月 26 日

特定非営利活動法人 地域デザイン研究会

- ◇ 本報告は、「河南町地域公共交通に関する検討会議（大阪府・河南町・NPO 法人地域デザイン研究会）」の成果を取りまとめたものである。
- ◇ なお、交通現況調査、アンケート調査及び集計・分析作業は平成 21 年度河南町地域公共交通調査・研究パートナーシップ事業として実施した。

# 1. 河南町の現状と課題

## 【1】土地利用・施設の課題

### ～河南町の地勢から～

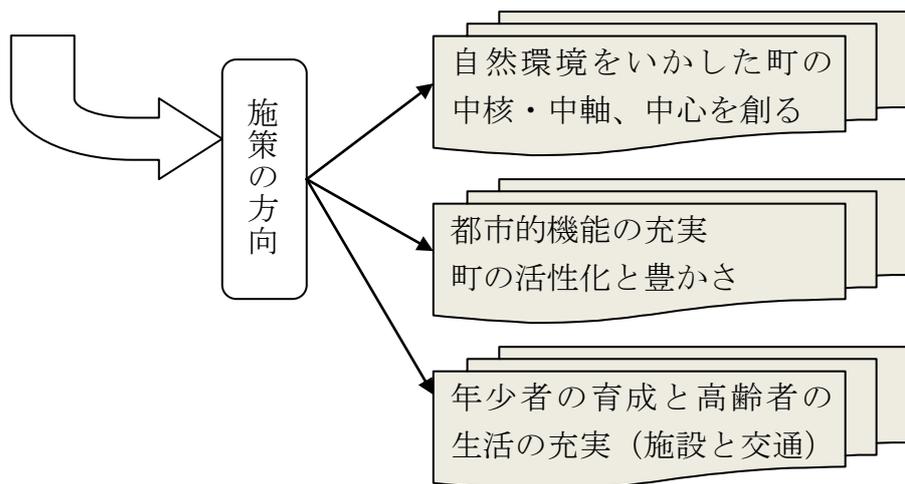
- 人々を魅了する優れた自然的資源を有する。自然豊かな河南町を再評価する。
- 線引き制度により優良農地が保全されており、日本の食文化や伝統文化の基盤が維持されている。反面、大都市圏域の都市的魅力に欠け、都市的魅力の創造に対する住民の欲求も強い。
- 丘陵部での住宅開発地（大宝・さくら坂等）が地形的に独立して立地し、町全体の一体性に欠ける。
- 河南町は、人口は約 16,600 人（平成 22 年 4 月 1 日現在）であり、府内ではコンパクトな行政体であるが、町の骨格及び中核がなければ豊かな地域としては存続しがたい。

### ～土地利用・施設立地から～

- 商業施設については、大型店舗は「万代」のみであり、その他は府道柏原駒ヶ谷千早赤阪線沿線等にコンビニ等が点在する程度で、主たる買い物先は富田林市等である。
- 病院等は、河南町域には診療所等があるものの、総合病院は富田林市他に依存。
- 府道沿線の白木区域には役場、福祉センター等が立地するものの、現段階では人々のニーズが集まる町の中核施設とは言い難い。道の駅「かなん」は、本来は中核施設となりうるものの、町の中心部ではなく、南の境界にあり、その機能を発揮していない。

### ～人口構成から～

- 現状と課題を分析するにあたっては、河南町全域を小学校区を基本とする石川、白木、河内、中村、大宝、鈴美台・さくら坂の 6 区域に分け、区域ごとの特徴を明らかにした。
- 14 歳以下の年少人口比率が最も高いのは、鈴美台・さくら坂区域の 20.6%である。鈴美台・さくら坂区域で河南町の年少者の約 35%を占める。
- 65 歳以上の高齢者比率では、町全体では現在 24.8%であり、最も高いのは河内区域（35.2%）である。今後、各区域とも高齢化が進展すると考えられる。
- 75 歳以上の後期高齢者比率は河内区域が最も高い（21.3%）。傾向としては、旧集落が高く、新興住宅地で低い。注視すべきは、開発から 40 年経過し、一気に高齢化が進行する大宝区域である。大宝区域の後期高齢者比率は現在約 12%程度であるが、前期高齢者比率が 19.6%と高く、予備軍としての 55～64 歳の比率が 15.8%であることから、10 年後は 35%を超える超高齢化を迎えると予想される。



## 【2】交通の現状と課題

### ～金剛バス～

- 住宅団地大宝区域からは、富田林駅と喜志駅の2系統のバス路線がある。両方向で見ると、通勤時間帯では、その本数は他の近郊都市部と変わらない。しかし、昼間時間帯では本数は少なく、「買い物行動」に対応できていない。
- 鈴美台・さくら坂区域のバスサービスは極めて貧困である。
- 白木、寺田の断面では、平均をやや下回る程度の水準ではあるが、昼間時間帯の本数不足の感は否めない。
- 町の中核的魅力が明確でなく、駅への交通需要などに合わせた路線系統であるため、大宝区域と河南町役場等を結ぶ路線がない。
- 金剛自動車にとって、今後大幅な乗降客の増加が見込まれない限り、サービス向上は困難である。

### ～クルマ利用～

- 町全体の自動車保有状況は、軽四自動車が0.79台/世帯、乗用車が0.83台/世帯であり、単純に合計すると1.62台/世帯となっている。乗用車は、大阪府域全体では0.6台/世帯に満たず、郊外市町村として、その割合は大きい。
- また、河南町の特徴は、軽四自動車の保有率が高いことである。区域別にみると、河内区域（1.37台/世帯）や中村区域（0.97台/世帯）などの集落地は、新興住宅地に比べて保有率が高い。その中でも大字持尾（1.66台/世帯）、大字下河内（1.34台/世帯）、大字平石（1.21台/世帯）などの山間地域は保有率が極めて高い。鈴美台・さくら坂区域は平均的に大宝区域よりも高いが、これは路線バスサービスが貧弱であり、クルマ利用に頼らざるをえないことが一因であると考えられる。
- 相対的にはクルマ保有台数が多く、地域全体ではクルマ依存地域といえる。しかし、急速に高齢化が進むと考えられる大宝区域をはじめ、高齢化の進行にともない、新たな地域公共交通を必要とする。

～やまなみバス（福祉バス）～

- 河南町内に点在する集落地区を結び、やまなみホールを中心として連絡する福祉バスの路線網として機能している。
- その目的は「福祉バス」の名の通りであり、それ以上ではない。山間地域の集落にとって、福祉バスは地域に欠かせない交通手段である。
- しかし、利用人員は多いとは言えない。コースによって多少の差はあるものの、やまなみホール或いは役場等と各区域との結びつきが薄いことも、このような結果の一因となっている。
- 河南町の中心部には役場庁舎や福祉センター等の公共施設が集積するが、これらが必ずしも住民のニーズを集める中核施設ではないことが、福祉バスや公共交通のあり方を考える際のネックになる。

◇平成21年度やまなみバス利用人数（延べ人数・定期運行308日）

	Aコース	Bコース	Cコース	Dコース	Eコース
コースの概要	大宝区域～やまなみホール	寺田～持尾～平石～やまなみホール	河内区域～鈴美台・さくら坂区域～やまなみホール	大宝区域～石川区域～やまなみホール	青崩～中村区域～やまなみホール
年間利用人数	5028	2158	5714	5635	2592
月平均利用人数	419.0	179.8	476.2	469.6	216.0
1日平均利用人数	16.3	7.0	18.6	18.3	8.4

～河南町モビリティの評価～

- 一部の地域を除いて、現段階ではモビリティ（移動のしやすさ）は一定程度確保されている。しかし、高齢化の進行や多様な自由目的に対応した移動手段という観点からは、今後大きな問題となっていく。
- 鉄道駅が町域になく、車社会の進展や農業を主とする地域構造から自動車利用の割合が極めて高い。また、中核的施設や中核軸がないことが、これまで町内移動における交通問題を顕在化させておらず、鉄道駅への交通問題意識のほうが高かった。
- 路線バスである金剛自動車にとって、大幅な乗降客の増加が見込まれないかぎり、サービス向上は不可能であろう。特に昼間時間帯において、河南町の住民が地域をあげて利用促進に努める積極的な協力体制が不可欠。
- 従来から大宝区域と河南町役場周辺を結ぶ路線がなく、その解決のためには、今後の町行政や総合計画での位置づけが不可欠である。中村区域への大型小売店舗の立地予定に伴い、交通の流れは若干変化するものの、基本的には変わらない。
- 高齢化や地域活性化・住みよさの追求のため、住民と行政が共に行動することが必要である。

### 【3】交通に関するアンケート調査

- ・平成22年1月実施（調査票送付）
- ・調査対象：20歳以上の住民2,000名（無作為抽出）
- ・回答者：990名（回収率49.5%）

#### ◇アンケート回収状況等

	男性		女性		性別不明		合計	
	回答者数	自由意見記入者数	回答者数	自由意見記入者数	回答者数	自由意見記入者数	回答者数	自由意見記入者数
石川区域	42	23	70	28	1	1	113	52
白木区域	56	20	62	27	2	2	120	49
河内区域	11	4	22	11	0	0	33	15
中村区域	73	34	110	47	3	1	186	82
大室区域	99	53	168	96	1	1	268	150
鈴美台・さくら坂区域	101	58	154	88	0	0	255	146
区域不明	5	2	3	3	7	5	15	10
計	387	194	589	300	14	10	990	504

#### ～アンケート調査の狙い～

- 河南町の交通の現状や区域ごとの交通特性を明らかにする。
- 運転免許の返納、移動目的の変化、ダイヤ変更といった状況の変化によって、自らの行動パターンは変化するかといった観点から、住民に自らの行動や交通を判断してもらい、地域公共交通の重要性について考えてもらう。
- 自らの意志・行動によって行政を動かし、新たな施策をつくりあげていくという住民意識の醸成。

#### ～アンケート調査結果（その特徴）～

- 回答者の約半数も自由意見欄に記入しているアンケートは少ない。
- 自由意見は、交通に対する直接的な要望・不満・改善点の提案から、町行政への思いや要望、さらには生活と町の活性化と衰退の可能性など、極めて幅広いものとなっている。
- 関心の高さの証明であると同時に、アンケート調査を踏まえた施策および行政との対話の必要性を痛感する。
- 総括
  - 河南町内の都市的施設が少ないこと、中心部の公的施設の魅力向上が必要。
  - 大室区域などからは、町中心部への交通アクセス向上というニーズ。
  - 高齢化、女性の移動、買い物等豊かな生活への欲求と交通問題、地区の衰退の可能性等の問題提起。
  - 特に鈴美台・さくら坂区域は交通貧困地域であり、クルマ依存からの脱却、公共交通施策の充実の要望は切実である。

## 2. 地域公共交通施策について

### 【1】地域公共交通を考えるスタンス

#### ～一般的スタンス～

- 高齢化の進行とともに、運転免許やクルマのない人たちの移動手段の確保がこれからの問題・課題となり、クルマ社会の限界が徐々に顕在化してくる。
- 通勤・通学・通院などとともに、豊かな生活を送るための趣味・憩い、人々との交流、ボランティア活動を支える「交通」の確保は、町の活性化及び町民の安寧のために不可欠である。
- 人口密度の「疎」地域は個別交通（自動車）が、「密」地域は公共交通（電車・バス）が一般的であり、その原則を超えた新しい交通システムは、住民と行政等の協働と連携により初めて創り出される。

#### ～河南町の地域公共交通～

- 河南町における地域公共交通は、住民の理解と協力を得て「ともに考え創り上げる」という基本スタンスで臨むことが重要である。
- 住民とともに多様な考えを実践に移す。そのためには、①情報の共有、②地域のまとまり、③住民からのアイデア募集とボランティアが不可欠。
- 公共交通問題は全国的にも未だ実験段階といってよく、河南町においても、出来ることから始め、その結果を的確に見極める必要がある。「こだわらない」「挑戦」「取捨選択」による施策の実施が必要。
- 行政が先行するのは失敗することが多い。そのつけは住民に跳ね返る。住民の本音を見極め、目的を明確にする。

### 【2】河南町地域公共交通に関する施策の提案

#### ～総合計画・都市計画からの施策～

- 町の中核及び中核軸の整備と誘導  
府道柏原駒ヶ谷千早赤阪線及びその沿道地域の利用、農地転用、パートナー公募、独自の線引き基準及び開発誘導、企業誘致
- 商業等施設の複合施設化  
多目的な商業施設（中村区域大型小売店舗（予定）、万代）、コンビニの複合化、「道の駅」・「ぷくぷくドーム」等の多目的化
- 地元及び企業と行政の連携  
商業関係者、企業、大阪芸術大学との連携、地元のNPOの育成・支援。

～地域公共交通としての施策～		住民協力による検証と社会実験
<b>―施策1― やまなみバスの再編整備</b>		
■ アンケート調査	①利用者が少ない ②特定の人利用 ③運行時刻のPR不足 ④利用しにくい運行（帰りの待ち時間）	
■ 再編・改変の方向	①有料化 ②路線網全面見直し ③特徴ある運行計画 ④一部デマンド化 ⑤福祉バスとしての補助（無料バス等）	
<b>―施策2― 買い物バスの導入</b>		
■ 実態と住民意向	①町内の買い物先が限定（万代その他） ②地形的に従来の路線バスは買い物行動などに対応できない ③時間限定した運行計画（商業施設の複合化と対応） ④中村区域大型小売店舗（予定）→道の駅→万代など	
■ 買い物バスシステム	①第一義的には商業者 ②行政の支援と連携・誘導 ③運行ルート・時間等 ④路線バス網、やまなみバス網との一体化 ⑤住民との協議機関の設置	
<b>―施策3― デマンド化の実験</b>		
■ 既存バス運行	①やまなみバス、金剛バスの運行と移動ニーズとの乖離 ②待ち時間（特に帰り） ③本数	
■ デマンド化実験	①場所は公共施設が集中する役場もしくはやまなみホール等 ②帰りの時刻のデマンド把握とバス運行 ③待ち場所機能を持つスペース確保と整備 ④やまなみバスシステム再編を前提としたデマンド化 ⑤地域ボランティアの育成	
<b>―施策4― 住民主導のコミュニティバスシステム導入</b>		
■ 交通希薄地の解消	①金剛バス路線がない、または昼間時の本数が極端に少ない ②やまなみバスが需要に対応していない	
■ 有料小型バス	①採算ベースに対応したバス ②有料（200円）、15分間隔（仮）	
■ 前提条件	①住民主導・協力（バス停、運行時間） ②バス乗降客の保証 ③コーディネーターの存在、バス事業者の発掘 ④行政の協力と町全体の基幹交通軸としての位置づけ ⑤改訂やまなみバスシステム、買い物バスシステムと連動	
参考：神戸市「住吉台くるくるバス」（高低差の激しい住宅地と平地を結ぶ）		



石川区域 白木区域 河内区域 中村区域 大宝区域 錦糸台・さくら区域

など、区域の状況に応じ施策を検討する。

◇区域別特徴について

	石川区域	白木区域	河内区域	中村区域	大宝区域	鈴美台・さくら坂区域
区域の性質	集落地			新興住宅地区		
バス路線満足度	○	○	×	○	×	×
特徴	比較的充実	町中心部	交通希薄地	南部中核地	高齢化の進行	交通希薄地
課題	町中心部へのアクセス	買い物行動への対応	福祉的観点	買い物行動への対応	町中心部へのアクセス	バス利用への転換

◇新地域公共交通システム検討イメージ図

